

関西学院大学図書館による起業支援

ビジネスライブラリアン講習会で得たものを基礎として

尾木 紹学
関西学院大学図書館

1. はじめに

本レポートでは、第22回ビジネスライブラリアン講習会（以下 B L講習会）で得たものを基礎として、関西学院大学図書館（以下、本学図書館）による起業支援の試案を示す。

まず、我が国における起業家育成に関する方向性と、関西学院大学（以下、本学）が現在行っている起業支援の取り組みを紹介する。

その上で、本学の起業支援の課題点を明らかにし、本学図書館による起業支援の試案について、概要と目的、具体的な内容、実施にあたっての課題を述べる。そして最後に、大学図書館として起業支援に取り組む筆者の抱負を述べ、まとめとする。

2. 我が国の起業家育成の方向性

文部科学省では2017年度より、次世代アントレプレナー育成事業をスタートさせている。これは、各大学で取り組んできた起業家育成教育の成果や課題をふまえ、大学等の研究開発成果を基にした起業や、新事業創出に挑戦する人材の育成、関係者・関係機関によるベンチャー・エコシステムの構築支援を目的としている。

岸田内閣では、「新しい資本主義実現会議」において「スタートアップ育成5か年計画」が策定され、2022年12月23日付けで閣議決定がなされている。研究大学は、1大学につき50社起業し、1社はエグジットを目指すという運動を展開することになっている。また、大学のみならず、小中高生の起業家教育の実施の拡大が示されている（筆者としては、B L講習会で紹介のあったビジネスプランコンテストが、実践事例として取り上げられるのではないかと期待している）。

3. 本学における学生の起業支援

3.1 IPO アントレプレナー100人創出プロジェクト

本学では2016年より、創立150周年（2039年）までに上場起業家を100人輩出することを目指すIPOアントレプレ

ナー100人創出プロジェクト（以下 起業プロジェクト）をスタートさせている。

入門フェーズでは、受講生は起業家精神を醸成することを目的に、本学出身でIPO（新規株式公開）を果たした起業家や第二創業でイノベーションを起こす起業家等8名によるリレー講座を受講する。起業家精神のみならず、起業家の生き方を学ぶとともに、発想、行動力、ビジネスモデル、競争優位性、組織運営、ネットワーク等々を講義で学ぶ。さらに、演習でビジネスアイデアを作成するグループワークを行い、ビジネスモデルについての理解を深める。

実践フェーズでは、受講生は起業に向けて踏み出す事を目的に、民間企業と連携し開講される「Kwansei Gakuin STARTUP ACADEMY」を受講する。先輩の経営者からアドバイスを得ながら事業計画を作成し、複数回の事業を立ち上げ、事業開発・起業に必要な経営のスキルを習得し、収益を上げることを目指す。そして卒業後に取り組みたい事業計画を作成し、これをブラッシュアップしながら半年間の受講後には「いつでも起業できる」状態を実現する。

サポートフェーズのプログラムでは、受講生は起業・起業後のサポートを受けることが目的となる。関西最大規模のスタートアップ支援プログラムリーダーを務めている本学卒業生が担当する個別起業相談のファーストステップ「戦略的學生起業論」では、戦略的な学生起業の実践方法を学ぶ。そして、トライアルステップ「松本起業ゼミ」では起業アイデア創出、事業計画作成、ピッチ等についての実践的なトレーニングを行う。より実践的な起業へ向けたアイデアの壁打ち、事業の進捗等について相談できる個別メンタリング機会も活用できる。

3.2 起業プロジェクトの課題

このように充実した内容の起業プロジェクトであるが、現段階において本学図書館はこの起業プロジェクトにコミットできていない。したがって、受講生に起業のための図書・資料、レファレンスサービスが十分に提供できておらず、受講生にとっての情報収集のための基盤が十分に整備されているとは言い難い。

B L講習会において学んだ通り、起業・創業のための情報

収集は極めて重要な要素であり、情報収集のための基盤である図書館が起業・創業に果たす役割は大きい。

そこで、本学図書館が起業プロジェクトに参画し、起業に必要となる情報収集のための基盤を構築し、支援を行うことで、起業プロジェクトの目的達成に寄与したい。

4. 本学図書館の起業支援

4.1 起業支援の概要・目的

本学図書館が、起業プロジェクトで学ぶ学生・卒業生の起業支援を、起業プロジェクト主管部局である研究推進社会連携機構と連携し実施する。

支援の概要は、BL講習会で得たものをヒントに、以下の通り設定した。

1. 起業に必要な図書の収集、電子ジャーナル、データベースの契約と整備
2. 起業を支援するためのリファレンスサービスの実施と充実
3. 起業のための情報検索・情報収集講座の実施
4. 研究推進社会連携機構との連携企画の実施
5. 起業家のための学びの場、業務の場、交流の場の提供
6. 事業評価のための調査の実施

起業プロジェクト受講生が、情報検索や情報収集の能力を高め、本学図書館の施設・設備、蔵書やデータベース等を活用して起業を実現し、起業後も引き続き図書館を活用することで事業を継続・発展させて上場を行う。その結果、本学から100人の上場起業家を輩出することが、本学図書館の起業支援の目的である。

4.2 起業支援の具体的な内容

起業支援の具体的な内容を以下に述べる。

全フェーズを通じて、起業に必要な図書の収集、電子ジャーナル、データベースの契約を行う。入門フェーズにおいては、起業プログラムの講義を担当する起業家講師が推薦図書を選定し、指定図書として受講生が閲覧できるようにする。実践フェーズにおいては、実践的な事業計画・事業実施のために必要な図書・データベースが活用できるようにする。サポートフェーズでは、卒業生が現在、利用できない資料があるため、これを利用できるよう登録制度を構築する。

リファレンスサービスについては、起業を目指す学生は勿論のこと、起業後の卒業生にも対応できるサービスを提供する。

また、図書館情報学等の学位を持つリファレンス担当者による、起業に役立つ情報収集、情報検索のための講座を実施する。

研究推進社会連携機構と連携しながら、起業に興味を持つ学生、起業を目指す学生に向けたイベントを大学図書館

ホールで開催し、図書展示等を実施する。

起業家のための学びの場、業務の場、交流の場の提供として、入門フェーズでは、演習でビジネスアイデアを作成するグループワークのための場所を図書館が提供する。実践フェーズでは、事業実践の事例報告会等のための場所として図書館ホールを提供する。サポートフェーズでは、起業した学生や卒業生が、業務ができる空間を提供するとともに、起業後の交流の場として、交流スペースを設定する。

実施評価のための調査については、図書館の利用と起業との相関を明らかにすることが評価の基準となると考えている。また、本学図書館が果たした役割を浮き彫りにするため、BL講習会における石川浩一講師の「図書館員のためのマーケティング&アンケート調査入門」で得た知識を活用しながら、起業プロジェクト受講生へのアンケートを通じて、受講生の意識の変容を通じて本学図書館が起業にどのように役に立ったかを分析し、実施評価に組み込みたい。

4.3 先行事例からみた実施にあたっての課題

BL講習会では、ビジネス支援の先行事例として、ビジネス支援に役に立つ図書・資料の情報を得た。講習終了後、早速、これらが本学図書館において備えられているかどうかを調査した。

1. 『業種別審査事典』⇒2020年版は所蔵。
 2. 『業種別業界情報 2022 年版』⇒所蔵
 3. 『創業の手引き』⇒所蔵なし
 4. 『商用データベース「市場情報評価ナビ MieNa」』⇒未契約
 5. 『第14次業種別審査事典』⇒所蔵なし
 6. 『東商信用録 2022 年版』⇒所蔵なし
 7. 『帝国データバンク会社年鑑 (2023 年版)』⇒所蔵なし
- 調査の結果、ほとんどの資料を収集できていないことが判明した。今後、起業に向けた情報収集のために必要不可欠な図書として配架するため、予算を確保することが必要となる。

起業支援のためのリファレンスについても、要員、要員の知識・技能が不足していることから、継続してビジネスライブラリアン講習に派遣することによって、ビジネスリファレンスに対応できる要員を増加させたい。

さらに、起業を目指す学生が集まり交流する場所や、起業をした学生の仕事場としての個人ブースの設置についても仕様変更のための営繕工事予算が必要となる。学内各方面に働きかけ、図書館の起業支援の意義を理解頂きながら、予算化を実現したい。

以上の通り課題が多いが、竹内会長が述べられたように、全てが整ってからビジネス支援を行うということではなく、まずは、できることから起業支援をスタートしたいと考えている。

5. まとめ

以上の通り、BL講習会で得たものを基礎として本学図書館の起業支援の試案を策定した。

これまで就職活動の支援、社会起業学科、経済学部、商学部における図書・資料収集、リファレンス対応を行ってきた実績もあるが、現段階では、起業支援のための図書・資料、リファレンス体制が不十分であることは否めない。

ただ、全てが整う状態を待つのではなく、この段階で、思い切って大学図書館として起業支援を掲げ、壁にぶちあたっても「思考停止」に陥ることなく、課題を一つ一つ克服しながら、支援内容を充実させ、起業プロジェクトの目的の達成に寄与したい。そして、結果として、今回のチャレンジが、大学図書館におけるビジネス支援の実践事例の一つになるよう取り組みたいと考えている。

謝 辞

本レポートは、BL講習会で得たものを基礎として執筆した。本試案そのものが、本学図書館におけるビジネス支援の第一歩であるが、講習会での学びがなければ、本試案の作成は到底出来なかったと考えている。

BL講習会において指導を頂き、第一歩を踏み出す勇気を与えて頂いたビジネス支援図書館協議会の先生方、ゼミの田村俊作先生。そして、あたたかく私を受け容れて下さったゼミのメンバーに心から御礼を申し上げたい。

文 献

- 1) 文部科学省，“次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）”，文部科学省ウェブサイト，
https://www.mext.go.jp/a_menu/jinzai/edge/1346947.htm, 2017
- 2) 内閣府 新しい資本主義実現会議（第13回），“スタートアップ育成5か年計画”，内閣官房ウェブサイト
https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/atarashii_sihonsyugi/kaigi/dai13/gijisidai.html, 2022
- 3) 竹内利明，講義資料“公共図書館におけるビジネス支援サービスの基本”，第22回ビジネスライブラリアン講習会，2022
- 4) 土井しのぶ，講義資料“実践力養成【実践事例】広島市立中央図書館におけるビジネス支援サービス”，第22回ビジネスライブラリアン講習会，2022
- 5) 関西学院大学，“IPOアントレプレナー100人創出プロジェクト”，関西学院ウェブサイト
<https://www.kwansei.ac.jp/shakairenkei/entrepreneur>, 2016
- 6) 伊藤正弘，講義資料“ビジネスデータ検索のための情報源とその活用法(前半)”，第22回ビジネスライブラリアン講習会，2022

7) 石川浩一，講義資料“図書館員のためのマーケティング&アンケート調査入門”，第22回ビジネスライブラリアン講習会，2022

8) 常世田良，講義資料“まとめ-再考：図書館員の意識改革”，第22回ビジネスライブラリアン講習会，2022